

中国 ICT 多国籍企業の海外進出の特徴とリスク要因 —ZTE のケースを中心として—

東洋大学経営学部 教授

劉 永鶴

<要旨>

本論文では、先行研究にあった中国多国籍企業の海外進出に関する分析、とくに筆者が以前の論文でまとめた「逆向き現象」という中国企業の国際化戦略の特徴を再検証するために、中国の ICT インフラ産業とその代表的企業を取り上げ、その発展の歩みと特徴を明らかにした。その上、中国 ICT 多国籍企業の No.2 である ZTE に焦点を当て、先発多国籍企業 (DMNEs) とは異なる中国多国籍企業 (CMNEs) の海外進出戦略とその特徴を浮き彫りにした。また、所謂「ZTE 事件」を取り上げ、中国多国籍企業の海外進出には多くのリスクに遭遇した事実を明確にした。さらに、今般の「米中貿易戦争」に象徴されるように、企業間の競争は同時に国家間の互角であることも指摘した。本研究で纏めた中国多国籍企業の海外進出の経験、課題、ならびにリスク要因等は、初期条件が類似している他の新興国多国籍企業 (EMNEs) のグローバル市場での展開にも示唆を与え、警鐘を鳴らすとともに、国際経営研究のさらなる深化にも繋がることが期待される。